

議題1 ①第3期加東市教育振興基本計画（最終案）について

該当資料	ページ	委員の意見	回答
資料1	8ページ	「満足」「やや満足」を合わせた『満足である』割合は、全体の1割から1.5割程度となっています。」これだけの表現だと、不満足の方が圧倒的に多い印象を受けます。「普通」は概ね肯定的な意見だと考えるのですが、6割の「普通」も肯定的な回答として付け加えることはできないでしょうか。	市民意識調査における施策の満足度については、「普通」と回答する割合が半数を超え、6割前後となっています。ご指摘のとおり、不満足の方が圧倒的に多いと誤解されるおそれがありますので、表現を見直します。 ※別紙1参照
資料1	37ページ	基本的方向（2）②ふるさと学習の推進について、ふるさと学習（かとう学）の推進を幅広くふるさと学習と捉えるならこの表現でよいと思います。	「かとう学」副読本を活用し、教科横断的な学びを実践することだけでなく、ゲストティーチャーの活用など社会と関わる機会を通して、ふるさと学習を推進していきます。
資料1	9～29ページ (図表6～図表28)	各々示された結果について分析し、その分析結果は、どの基本的方向におけるどの具体的施策に関連するかがわかるように、各施策に関わる「計画書」を作成するためにも、簡単に記載しておくことが大切であると思います。	第2章の教育をめぐる現状と課題では、市民意識調査や児童生徒の学力や体力調査、施策や施設の参加状況、利用状況などの結果を示すとともに、30ページから32ページにおいて、一部該当する調査の図表番号を示しながら、今後の取り組むべき課題について記述しています。 例えば、30ページの9行目、図表11、12の結果、「学力や学習に向かう力の向上」に課題があり、「「確かな学力」の育成をめざしていく必要があります。」とし、第3章の具体的施策につなげています。

議題1 ②目標値の修正箇所について

該当資料	ページ	委員の意見	回答
		前回アンケート調査がなかった項目の成果指標について、今回の成果指標の目標値の根拠をお持ちでしょうか。	【これまでに調査結果がない指標の目標値の考え方について】
資料1 資料2	44ページ 1ページ	●ふるさとを大切にしたいと思う児童生徒の割合	学校教育課：令和2年調査を基準とし、毎年1ポイント増とする目標値に設定しています。
資料1 資料2	50ページ 2ページ	●不安や悩みがあったときに、相談できる人がいる児童生徒の割合	学校教育課：令和2年調査を基準とし、計画最終年度に100%とする目標値に設定しています。
資料1 資料2	51ページ 3ページ	●市民対象講演会に対する参加者の内容理解度	発達サポートセンター：令和2年度は市民対象の講座が開催できなかったため基準値はありませんが、過去の質問項目（研修がよかったかどうか）の調査結果を基に目標値を設定しています。
資料1 資料2	52ページ 3ページ	●保育士等キャリアアップ研修への参加者が、保育実践に役立つと回答した割合	こども教育課：目標値は、研修が参加者にとって有意義であったか、ニーズに合致していたかを図るためのもので、改善の可否を判定する基準として目標値を設置しています。
資料1 資料2	57ページ 5ページ	●学校や市の研修会に参加した保護者の割合	学校教育課：これまでの学校での研修会への参加状況により目標値を設定しています。
資料1 資料2	57ページ 5ページ	●親子活動、ひろば活動等の参加者が、楽しい・良かったと感じた割合	こども教育課：目標値は、活動内容が参加者のニーズに合致していたか、また、満足できるものであったかを確認するもので、改善の可否を判定する基準として目標値を設定しています。

該当資料	ページ	委員の意見	回答
資料1 資料2	59ページ 6ページ	●学校教育環境の整備充実に満足している市民の割合	教育総務課：令和2年調査を基準とし、小中一貫校の建設など教育環境の整備を進めることにより、5年間後の目標値を約4ポイント増と設定しています。
資料1 資料2	61ページ 7ページ	●高齢者大学での学びが役立った、生きがいがづくりにつながったと回答した人の割合	生涯学習課：今まで市民アンケートの実績はありませんが、本事業は「生涯学習の充実」に区分されことから、前回実施の市民アンケートの「生涯学習の充実」結果における「不満がない人」の割合81.4%を目標に設定しています。 なお、満足度を向上させるための手法について運営委員会において協議し、年間2ポイント増の設定としています。
資料1 資料2	61ページ 7ページ	●成人を対象とした講座の内容が役立ったと回答した人の割合	生涯学習課：今まで市民アンケートの実績はありませんが、本事業は「生涯学習の充実」に区分されことから、前回実施の市民アンケートの「生涯学習の充実」結果における「不満がない人」の割合81.4%を目標に設定しています。 なお、満足度を向上させるために工夫を凝らした手法により年間2ポイント増の設定としています。
資料1 資料2	61ページ 7ページ	●参加した教室等の内容がよかったと回答した子どもの割合	生涯学習課：今まで市民アンケートの実績はありませんが、本事業は「生涯学習の充実」に区分されことから、前回実施の市民アンケートの「生涯学習の充実」結果における「不満がない人」の割合81.4%を目標に設定しています。 なお、満足度を向上させるための手法について運営委員会において協議し年間2ポイント増の設定としています。
資料1 資料2	65ページ 8ページ	●加古川流域滝野歴史民俗資料館、三草藩武家屋敷旧尾崎家の来館者満足度	生涯学習課：今まで市民アンケートの実績はありませんが、本事業は「芸術・文化に関する施策」に区分されことから、前回実施の市民アンケートの「芸術・文化に関する施策」結果における「不満がない人」の割合80.6%を目標に設定しています。 なお、満足度を向上させるための手法について検討し年間2ポイント増の設定としています。 ※別紙2参照（第5回策定委員会資料2の数値を訂正）
資料1 資料2	67ページ 9ページ	●スポーツ活動の支援に満足していると回答する推進委員の割合	生涯学習課：今まで市民アンケートの実績はありませんが、本事業は「スポーツ活動の支援」に区分されことから、前回実施の市民アンケートの「スポーツ活動の支援」結果における「不満がない人」の割合79.1%を目標に設定しています。 なお、満足度を向上させるための手法について各種団体の協力を得て年間2ポイント増の設定としています。
資料1 資料2	68ページ 9ページ	●施設整備について満足していると回答する施設使用団体の割合	生涯学習課：今まで市民アンケートの実績はありませんが、市所有の生涯学習施設のうち、施設数や登録団体数から判断し、本指標はスポーツ施設に焦点を当て、「スポーツ活動の支援」に区分します。 前回実施の市民アンケートの「スポーツ活動の支援」結果における「不満がない人」の割合79.1%を目標に設定しています。 なお、満足度を向上させるための手法について検討し年間2ポイント増の設定としています。 ※別紙2参照（第5回策定委員会資料2の表を訂正）

該当資料	ページ	委員の意見	回答
資料2	9ページ	基本方針Ⅲ(6)社会教育施設及び社会体育施設の効率的な管理・運営の取組指標について、各年度の目標値が、521,662人、524,270人、524,532人、524,795人、525,057人と細かい数字になっているが、目標値としてはどうか。521,000人、522,000人、523,000人、524,000人、525,000人としてはどうか。	計算式から導いた数字を目標値としていますが、ご指摘をいただいておりますとおり、1人単位は現実的でないと考えます。従いまして、本市の使用人数実績から1,000人単位では幅が広すぎると思いますので、100人単位 521,662人→521,600人 524,270人→254,200人 524,532人→524,500人 524,795人→524,700人 525,057人→525,000人 に修正いたします。 ※別紙2参照(第5回策定委員会資料2の数値を訂正)

議題2 概要版(案)の記載事項について

該当資料	ページ	委員の意見	回答
資料6	4ページ	「本計画を推進していくために・・・」について、「見える化」という言葉は企業で造られた造語なので国語的には「可視化」ではないでしょうか。	「可視化」に修正します。 ※別紙3参照
資料6		作成している「第3期加東市教育振興基本計画」は企画書のような性格を持ったため、概要版では、内容、ねらい、効果、意味の明記が大切になるが、原案で確認できました。	全戸配布を予定しているため、教育振興基本計画とは何かという説明も追加します。
資料6		各基本方針における各基本的方向と具体的な施策の一つひとつは、「人間力」を構成する①知的能力的要素、②社会・対人関係力的要素、③自己制御的要素のいずれを主として対応させるかについて示しておくことが大切であると思います。	資料1の「第3期加東市教育振興基本計画(最終案)」の4ページに人間力の定義を抜粋していますが、構成要素の具体例にあるように、①から③の要素として、様々な力が示されています。 例えば、計画における基本的方向(1)確かな学力の育成は、主に①の知的能力要素に結び付くかもしれませんが、③自己制御的要素とされる「意欲」「忍耐力」も必要であり、また、②社会・対人関係力的要素とされる「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高めあう力」にも結び付くものであり、計画における基本的方向や具体的な施策と人間力の構成要素とが、1対1で結び付けられるものではないと考えています。